



有明高専だより

第130号
2010.2



目次

特集 JABEE審査を受審して	2・3	デザコン・冬季球技大会	12
シリーズ 卒業を控えて(5年生)	4・5	定期演奏会・ポスターセッション	13
シリーズ 人物・いま	6・7	新学生会・学生会役員研修	14
2009 アラカルト	8・9	岱明寮だより	15
シリーズ 研究室訪問	10	トピックス・編集後記	16
シリーズ 企業訪問－卒業生を訪ねて－	11		

※本文中ににおいて、学生氏名の前にある英数字等は、所属クラスを表します。

(数字:学年、M:機械工学科、E:電気工学科、I:電子情報工学科、C:物質工学科、A:建築学科、専:専攻科 但し、2年生は学年 - 組)

特集 JABEE審査を受審して

学校運営検討委員会

本校は、本年度、JABEEの審査を受けました。この特集では、その審査で本校側の担当を行った学校運営検討委員会に、JABEEの審査の説明や本校の審査結果、今後のこと等についてまとめてもらいました。皆さんがあなたのJABEEや本校の教育のあり方等を正しく理解し、真剣に学習を行ってもらうことを願います。

■そもそもJABEEとは？

JABEEの正式名称は、「日本技術者教育認定機構」といいます。「機構」ですから、ある種の団体・組織です。何をする団体かというと、日本の大学あるいは高専が、その学校で世界に通用する技術者を育てる教育を行っているかどうかを審査し、行つていれば、「JABEE認定」という認定を与え、世間に広く公表する団体です。したがつて、JABEE認定された学校は、世界に通用する技術者を育てていることになります。ただし、認定には有効期間があり、5・6年です。有効期間が過ぎるときには、認定の継続のための審査を受けなければなりません。

本校も、平成16年度にJABEE認定されました。そして、平成21年度、認定の継続のための審査を受けました。

■JABEEの審査とは？

JABEEは、その学校が世界に通用する技術者を育てる教育を適切に行つていているかどうかを審査します。審査項目は、約30項目あり、教育全般にわたっています。たとえば、

- ・ 学習・教育目標が設定されているか
 - ・ 目標を達成するためのカリキュラム（授業科目）が設計されているか
 - ・ シラバスがきちんとされているか
 - ・ 成績評価をきちんとしているか
- 等の授業科目に関係することだけでなく
- ・ 教育環境（設備等）が整っているか
 - ・ 入学者をきちんと選抜しているか
 - ・ 教育に関係することで悪い点を改善しているか
- 等も審査項目に含まれます。

審査の手順は、まず、学校が「自己点検書」という冊子を作り、「審査項目全てを満たしています」という自己申告を行います。すると、JABEEは、審査チームをその学校に派遣して、この自己点検書に書かれていることが事実かどうかを確認します。たとえば、設備が整備されているか、授業がきちんと行われているか、成績評価が適切かどうか等を、施設や授業を視察したり、授業を受けている学生あるいは授業を行っている教員と面談したり、保管されている答案をチェックしたりして確認します。審査チームが確認した結果、審査項目全てが満たされていると判断されれば、JABEE認定となります。ただし、審査項目の内いくつかに改善を要する項目があれば、JABEE認定の有効期間が2・3年間に短縮されます。そして、その2・3年間に改善がなされれば、有効期間が延長されて、5・6年間のJABEE認定になります。

■本校の今回の審査内容は？

本校のJABEE認定継続のための今回の審査では、昨年11月15日(日)から17日(火)に審査チームが来校し、授業の視察や学生・教職員との面談、保管答案等のチェック等が行われました。

在校生との面談では、各学科の本科4・5年生10名および専攻科1・2年生10名と審査員2名ずつのグループ面談が行われ、学習・教育目標やシラバス、授業科目の評価方法等について質疑応答がなされました。審査チームからは、「面談者の人がはつきりと受け答えをし、本校の実状がよくわかりました」と高評価をいただきました。面談者の皆さん、ありがとうございました。

教職員での面談では、たくさんの学習・教育目標を持つ科目（特別研究や特別演習・合同演習等）を担当されている先生方に、目標の達成度評価に関して質疑応答がなされました。また、実際の授業風景や設備の視察・見学がなされました。視察で対応していただいた関係者の皆様、ありがとうございました。

■本校の審査結果は？

さて、本校の今回の審査において、評価できる点として、審査チームから次のことが述べされました。

○学生・教職員が熱心に学習・教育に取り組んでいることを評価します。

○地域社会に関する科目としての地域協働演習、また合同特別実験の取り組みは前向きで独自なものであり評価します。これらは地域産業界において取り組みが期待されていると思います。

○創造設計合同演習はユニークな取り組みであり評価します。

○学生面談の結果として、補習やオフィスタイルにおける指導が熱心になされており評価します。

○授業公開やその情報交換がなされており評価します。逆に、改善すべき点として、次のことが指摘されました。

△学習・教育目標が、達成すべき水準について具体的であることが望まれます。

△各科目の目標と学習・教育目標の対応関係が不明確であり、改善が必要です。

△シラバスにおいて、科目毎に評価方法・基準は示されていますが、学習・教育目標との対応についての記述がありません。達成度評価も学習・教育目標に関連付けたものとなっているとはいえないません。

つまり、「本校は学生も教職員も熱心に学習や教育に取り組んでおり、全般的には評価できる。しかし、

学習・教育目標をもっと具体的に分かりやすくし、各科目における目標や評価方法を、学習・教育目標と対応させるようにシラバス等を改善する必要がある。」という結果でした。

そして、この結果のままならば、本校のJABEE認定は、有効期間が3年間に短縮されたものになります。その3年間の間に、指摘された改善すべき点を改善すれば、さらに3年間延長されて、6年間のJABEE認定となります。

■本校の今後の取り組みは？

今回の審査結果を受けて、本校は、指摘された改善を行うことになります。すなわち、①学習・教育目標を具体性を持ったものに作り直し、②各科目における目標や達成度（成績）評価が学習・教育目標と対応づけられた様式のシラバス等を作成し、3年後にはそれらが実働しているという実績を残すように、取り組みを行うことになります。

■①そもそも学習・教育目標とは？

学習・教育目標とは、世界に通用する技術者が備えていなければならない知識や能力を掲げた目標のことです。

本校の現在の学習・教育目標のA-1は、「豊かな教養があり多角的に物事を捉える能力を備えている」で、他の目標も同様に「○○を備えている」という形式で述べられています。これは、学生側から見ると、「○○という知識や能力を備えることを目標に学習をしましょう」という学習目標であり、教員側から見ると、「学生が○○という知識や能力を備えるように教育をしなければならない」という教育目標であり、学生・教員の両サイドから見て、学習・教育目標となるわけです。そして、○○の部分に、世界に通用する技術者が備えていなければならない知識や能力を掲げることになります。

JABEEは、世界に通用する技術者が備えるべき○○の知識や能力について、最低限、次の(a)-(h)を指定しています。

- (a) 地球的視点から多面的に物事を考える能力
- (b) 技術者としての社会に対する倫理観・責任
- (c) 数学や自然科学・情報技術の知識と応用力
- (d-1) 基礎工学の知識・能力
- (d-2a) 専門工学の知識と能力
- (d-2b) 実験等を計画・遂行し、分析・考察する能力
- (d-2c) 創造性を発揮して課題を探求する能力
- (d-2d) 問題点を理解し、適切に対応する能力
- (e) 身につけた能力を活用して問題を解決する能力
- (f) 日本語・英語のコミュニケーション能力
- (g) 自主的・継続的に学習できる能力
- (h) 与えられた制約の下で、仕事を完結できる能力

そして、学習・教育目標は、これらの(a)-(h)を含むように、学校独自でアレンジして設定するように指示しています。現在のシラバスの学習・教育目標の欄には、上の(a)-(h)の記号が付記されていますが、それは、その学習・教育目標が(a)-(h)のどれを含んでいるかを表したものです。したがって、学習・教育目標を全て達成した学生は、JABEEが指定した(a)-(h)の知識や能力を全て備えることになり、世界

に通用する技術者であるということになります。

この学習・教育目標に関して、今回の審査で指摘されたことは、「本校の現在の学習・教育目標の文書表現をもっと具体的でわかりやすい表現にすることが望まれる」ということです。

■②学習・教育目標と授業科目の関係は？

学生が学習・教育目標を達成する（すなわち知識や能力を備える）ことができるよう、学校のカリキュラム（授業科目）は設計されています。すなわち、各学習・教育目標には、それに関係する授業科目があり、それらの授業科目を修得すれば、目標が達成できるようになっています。たとえば、現在の学習・教育目標A-1には、シラバスにA-1と記載されている国語や社会・外国語の科目があり、これらの科目の内いくつかの必要な科目を修得すれば、A-1を達成した（A-1の知識や能力を備えた）ことになります。つまり、本校のカリキュラムは、全ての学習・教育目標について、関係する科目が設定され、それらの科目の内必要な科目を修得すれば、学習・教育目標が達成されるように作られています。

このように、学習・教育目標と授業科目には密接な関係があります。したがって、シラバスに記載する授業科目の目標は、関係する学習・教育目標と対応した表現になっている必要があります。また、授業科目の成績評価は、関係する学習・教育目標が達成できているかどうかを評価する必要があります。

このカリキュラムに関して、今回の審査で指摘されたことは、シラバスに記載されている授業科目の目標が関係する学習・教育目標と対応した表現になっていない科目があつたり、また、成績評価が学習・教育目標の達成度を評価していない科目があつたり、とくに、一つの科目が複数の学習・教育目標と関係する場合には、それぞれの学習・教育目標に対応した科目の目標と成績の評価方法を記載しなければなりませんが、そうなっていない科目があつたりするので、改善が必要であるということでした。

■最後に

以上、昨年JABEEの審査を受けたことに関連して、JABEEとか学習・教育目標や授業科目について述べました。JABEEについていろいろ話を聞くことがあるかもしれません、まずは、JABEE審査の仕組み等を正しく理解し、そして、JABEEについての様々なことを判断してください。

最後に、最も重要なことを述べます。

JABEEが要求している「世界に通用する技術者」や最初に述べた審査項目を満たすこと等は、JABEEの審査を受けるために行うことではなく、本校が技術者を育てる高専という学校である以上、本来、JABEE審査と無関係に、学生・教職員が一丸となって行うべきことです。学習・教育目標は、JABEE審査のためにあるのではなく、皆さんのが技術者として社会に出て行くために必要だからあるわけです。

卒業後、社会で通用する技術者になるために、是非、目標を達成することを心がけて、日々の学習に励んでほしいと、切に願う次第です。

シリーズ④ 卒業を控えて

卒業を前にした5年生の皆さんに、5年間の思い出やこれからの抱負などについて語っていただきました。

出席者：M 柿原 隆宏（学生会長／有明高専専攻科に進学）

E 徳山 佑麻（テニス部キャプテン／リコーエクノシステムズ九州支社に就職）

I 武末 真実（ハンドボール部マネージャー兼部長／富士通ミツシヨンクリティカルシステムズに就職）

C 大園 啓太（寮整美局長、サッカーチーム／豊橋技術科学大学に進学）

A 中尾 嘉克（寮長、ラグビー部キャプテン／熊本大学に進学）

司会：坂西文俊（広報室）



司会 坂西先生

司会：本日は卒研の追い込みなどで忙しいところをお集まりいただき、ありがとうございます。この座談会では、卒業を控えた皆さんに5年間の思い出や後輩へのメッセージなどをうかがいたいと思います。まず、はじめに、高専で務めた役職やこれからの進路について教えてください。

（上、記載の通り）

司会：それでは、高専の5年間で一番印象に残ったこと（思い出になったこと）は何ですか。

中尾：高専生活の全部が記憶に残っていて、何もかもが楽しかったです。

一同：僕も、私も！ ズルいね、それ。（笑）

大園：今年の体育祭で、物質工学科が2位になったことです。ただ、1位とは僅差だったので悔しい思い出もあります。やはり、体育祭は勝たないとつまらないと感じました。

柿原：学生会活動が一番印象に残っています。みんなが納得する企画を考え実行して、みんながついてきてくれて成功し、達成感を得たことです。もう一つは、部活でエコランのフレーム改良等を行い、7年ぶりに記録を更新できたことです。

徳山：部活で、顧問の川瀬先生が怖くて、今でも会えば背筋が伸びる思いでいるのですが、とにかく鍛えてもらったことがいい経験になっています。

武末：まずはやはり部活なのですぐ、5年生になって部長も兼任することになり、



E 徳山さん

この時の高専大会はすごく記憶に残っています。また、体育祭で、目立たずみんなと一緒にすることもない会計の係を担当したのは、大変だったのですが、やりがいのあるいい経験でした。

司会：では次に、高専生活で大変だったことは何ですか。

一同：（全員一斉に）レポート（製図）!! 難しいのもあるし、量も多く、大変でした。とくに、テスト期間中のレポートはきついです。高学年になると実験の数が増えるので大変でした。

司会：でも、就職して仕事をこなして行く時の予行練習だと思えば、いい経験をしたことになりますね。

一同：そうですね。

司会：では次に、これからの抱負・人生の目標みたいなものを聞かせてください。

大園：勉強して給料の高い会社に就職して、経済的に楽ができるようになりたいです。また、スポーツをずっと続けたいです。

中尾：ラグビーには、"one for all, all for one"、すなわち、「一人はみんなのために、みんなは一人のために」という言葉がありますが、この言葉を目標に、みんなと協力して頑張って行きたいです。

一同：かつこいい！



M 柿原さん

柿原：小学校の時の先生が言わされた言葉が今でも自分の中に残っていて、それは「挑戦、責任、発想」なのですが、この言葉を大切にして、卒業研究や専攻科での勉強、これから先のいろんなことに取り組みたいです。

武末：このような不景気の時期に、幸いにも就職ができたので、しっかり働き、男性に負けない仕事のできるキャリア女性になりたいです。

一同：かつこいい！

徳山：内定式で、周りが大学生ばかりだったのですが、その人たちが落ち着いて見え、そんな中で自分は浮いた感じを受けましたが、会社に入る頃には、その人たちに負けないように仕事を頑張りたいです。

司会：5年間の高専生活を過ごした経験をもとに、後輩へのメッセージをお願いします。

大園：今年は就職が厳しくて、まだ決まっていない人もいますが、来年はもっと厳しくなると聞いたので、就職や進学は、早めに活動を開始し、落ちこぼれないように取り組んでほしいと思います。

武末：そう、進路のことは早めに、もう4年生の時から考え始めた方が良いと思います。

一同：本当に、そう思います。進路とくに就職か進学かは、もっともっと早くから決めておいた方がいいです。

中尾：部活でも趣味でも何でもいいので、何事にも積極的に取り組んで続けてほしいです。「継続は力なり」です。それは就職にも役に立つと思います。

徳山：4・5年生になると、部活やレポートで休日もない程忙しくなるので、下級生の間は、自由な時間を使って、勉強する時は一所懸命勉強し、遊ぶ時は一所懸命遊ぶ！

柿原：とにかく、レポートを頑張ることを心がけてください。レポートを書くことで、科目の理解力がつくし、忍耐力もつきます。そして締切を守ることも大切です。社会に出てから絶対必要なことだと思います。それから、何事にも失敗を恐れず挑戦し、失敗したらそれを糧に最後までやり通すことも大切だと思います。

大園：今しかできないことを、しっかりやっておいてほしいと思います。後で後悔しないように、何事も真剣にやっておいてほしいと思います。

一同：さっきも出たように、勉強と遊びのけじめをつけて、両方一所懸命、後で後悔しないように頑張る！ですね。5年生になると年を感じます。何でも若いうちに頑張っておきましょう！

司会：5年生で年を感じるのですか。私の立場はどうなるんですか・・・。では、次に、これをしておけば良かったというような心残りなことがあれば、お願ひします。

徳山：自分は最近、車の免許を取ったのですが、それまでは友達との車トークについていけなかつたので、早くとておけば良かったなと感じています。ただ、後輩に対して「早くとておいた方がいい」という意味ではありません。無許可車輌通学は論外です。ル

ルは守りましょう。

一同：心残り。いっぱいありすぎて、これ！というのが・・・。

司会：小さいことでもいいですから。

武末：混合学級で、友達の輪をもっと広げておけばよかったです。特定の人としか会話をしなかつたので、全学科の人と話をしておけば良かったと感じています。オールマイティなのは、カッキー（柿原の愛称）だけ。カッキーだったから今年の体育祭は成功したと思います。

一同：カッキー、ありがとう！

司会：中尾君、他にありますか。

中尾：天然パーマをストレートにすることがはやっていたので、ストレートにしてみたかったです。

武末：ハンドボール部長として、高専大会の全国大会にみんなを連れて行けなかったことが心残りです。

司会：では、学校に対する要望等があれば。

大園：グラウンドの照明設備を増やしてほしい。テニスコートにも設置してほしい。

武末：ハンドボールは室内競技ですが、平日はずつと屋外で練習をしています。体育館でやれるのは、休日の午後だけなので、もう少し、体育館で練習できる日が増えるように、体育館を使用する部活動の割振りを考えてもらえばと思います。

中尾：寮からの通学路として、寮の裏の竹林の道を整備してほしいです。

柿原：図書館の西側の壁には、以前、古墳の壁画が描いてあったと聞きました。今はなくなっているので、そういうものは復活できたらいいなと思います。

司会：それでは最後に、何かいい忘れたこと等がありましたら、お願いします。

武末：何もしなくて後悔するより、何かをやって後悔する方がいいと思います。

大園：自分もサッカーで後悔しています。物事を1回でできる人もいれば、10回しないとできない人もいます。自分は10回の方だと思うので、もっと努力をしておけば良かったと感じています。

司会：それでは、今日は、いろいろな話を聞かせていただきまして、本当にありがとうございました。卒業されたあとも頑張ってください。



Ⅰ 武末さん



A 中尾さん



C 大園さん

シリーズ 人物・いま

退職教職員

平成22年3月をもって退職される教職員4名の方々に、次の3つの質問に答えていただきました。

Q1 高専で最も思い出に残ることは? Q2 高専あるいは学生に望まれることは? Q3 今後のことについて一言



機械工学科
川寄 義則
教授

A1 学生として5年、教員として37年、思い出に残ることは、とても3行では。自分が選んだ新設の有明高専、企業勤務4年を経てその母校の教員。学生として、また学生と共に互いの魂を揺さぶり合う感動に満ちた毎日を、この有明高専で心豊かに過ごしました。

A2 高専とは、学生は、自分以外知らない人の中にはいっていくための勉強。教員は、学生が自立できるための入魂。そして職員はそのための教育環境作りに精進するところ。だから、学生も教職員も真剣勝負。その基になるもの、それは皆が心豊かであること。

A3 63年間、私の行くところすべてで有明高専の広告塔のつもりで生きてきました。これから? “有明高専ボランティアガイド”が私の大きな夢でしたが、母校からオファーを戴けず実現できませんでした。でも母校への熱い思いは、人に負けない自信があります。



事務部長
篠原 一夫

A1 有明では、3年間と短期間ではありましたが、アットホームな雰囲気の中でやりがいのある仕事ができました。また、高専生の行事等で見せる真剣さは、すがすがしく気持ちの良いもので、今の大学生は忘れているような気がしています。

A2 皆さんの長年の努力で、高専は社会や企業から高い評価を受け存在感もあります。これからも高専らしさを維持しつつも、更なる飛躍を望みます。

A3 定年後は、地元に戻り地域のために奉仕できればと考えています。



総務課
右田 信明
調達管理係長

A1 数ある思い出の中でも、採用されてすぐの創立10周年記念行事、夏に九州地区高専教職員の共済事業で行われたスポーツ大会、初めて受審した会計検査院の検査、専攻科設置のための会議・出張そして公務員改革の国家公務員から独立行政法人職員となったことなどが思い出として、鮮明に残っています。

A2 学生諸君に一言、勉強も大事ですが社会のルール、マナーなど社会勉強も大事な時期ですので、保護者・教職員・諸先輩の行動をよく理解して、これから的人生に役立てて欲しいものです。

A3 これから年中日曜日なので今まで時間的にできなかった趣味の園芸・野菜作り・盆栽作り等・散歩も良いですね。考えただけでも楽しくなりそうな時間が過ぎていくように思われますが、身体だけは丈夫でないと何にもならないですから。皆様も健康でこれから長い人生を乗り切ってにこやかに過ごせたら良いのかもしれません。



学生課
右田 末子
寮務係長

A1 最初は庶務課に16年程勤務し、タイピスト・交換手・一般事務と沢山の経験を諸先輩に教えていただきながら緊張感の中でも楽しく仕事ができました。今思えばお昼休み時間は学校の廻りを同僚と散歩したり、また体育館でバドミントンをしたりして軽い運動ができ、気分良く午後の仕事への切り替えができていたように思います。今ではとてもできそうもありませんが。また、機械工学科で学科事務を6年間勤務し、高専祭・体育祭の準備等での先生方の大変さや学生達が先輩を中心に一生懸命取組んでいた姿など懐かしことばかり思ひだされます。

A2 学生生活だけに規律があるのではありません。「挨拶」・「感謝」・「思いやり」の心を持ち続けられる人になってください。

A3 朝、ゆっくりとした時間から始まり、今までと違う充実した日々が迎えられ、ゆとりの中で幾つかの趣味ができるのを楽しみしています。健康も考え適宜なスポーツも良いですね。時間にゆとりができ、何でもできると思うと、考えるだけで楽しくなります。まずは、休養として温泉旅行など考えています。

総務課 小宮 俊幸 総務係長 小宮係長は本校に35年3ヶ月勤められました。ご本人の希望により記事は割愛いたします。

留学生 -卒業を控えて-

卒業を迎える留学生の51フク君、5Aトニー君に、本校での



51
フク君
(グエンホンフク)

—今までお世話になりました—

私は平成19年度に東京日本語教育センターを卒業して、有明高専の電子情報工学科へ3年次編入しました。高専に来てからもう3年間過ぎました。

最初の時、日本語の能力がまだ足りなかったので、授業や生活ではとても苦労しました。しかし、先生方や同級生の皆はいつも優しくいろいろと教えてくれました。そのおかげで、私はだんだん慣れてきて、授業の内容を理解することやみんなに追いつくことができました。

私は3年間岱明寮に住んでいました。寮のルールや食事になれるのが大変でしたが、私にとって寮での3年間はとても楽しい3年間だったと思います。寮の友達と岱明寮のことは決して忘れません。

ついに、卒業式を迎える日が来ました。私は熊本大学へ進学する予定です。また皆さんに会える日を楽しみにしています。本当にありがとうございました。

永年勤続表彰

永年勤続20年の教職員4名の方々に思い出などをお聞きしました。



機械工学科
原槻 真也
准教授

- 20年間での一番の思い出 2005年に登山部の学生と北アルプスを縦走した時のことでした。燕岳をスタートし、槍ヶ岳、穂高連峰を極め、後は前穂高を経由し上高地へ下るだけとなった7月28日11時15分、不覚にも吊尾根から滑落し遭難してしまいました。幸いへりで救助されましたが、校長先生をはじめとして教職員、学生の皆さんに大変なご心配、ご迷惑をかけてしまったことが一番の思い出です。入院中たくさんの方々から心やさしいお見舞いを受けたことも忘れられない大切な思い出です。
- これから的生活 方 生きている実感を持ち続けるためにも山行を続け、生きていることへの感謝をしつつ自然との触れ合いを大切にして生きたいですね。
- 学生に一言 相手のことを思いやる優しい心、少々のことには耐え忍ぶ強い精神力を育んで欲しいですね。
- 現在の研究 10年以上前からロボットの制御について研究しています。ある時、分散型運動学計算法のアイデアを思いつき、これまでの方法ではできなかつたことが簡単にできるようになってきました。面白いですよ。



物質工学科
川瀬 良一
教授

- 20年間での思い出 思い出は多く、一番を決められません。最近では、2008年に本校の学生とシンガポール・ポリテクを訪問した時の両校の学生の笑顔です。教員になった喜びを実感しました。2009年では、テニスの全国大会を学生や事務職員などの多くの方々の協力により無事に終了し、他校の学生や教員の方から、ご苦労様と言っていただきました。多くの方々に感謝です。
- 20年で自分が変わったところ 気力は変わっていませんが、体力が落ち、記憶力が落ち、髪の毛が落ちました。髪の毛は取り戻せませんが、気力と体力は維持したいと思っています。
- 学生に一言 努力すれば何事も向上します。粘り強く、向上心を持ち続けてください。また、広い視野を持つ人間を目指してほしいです。
- 現在の研究 表面改質技術の一つである溶射技術を研究しています。今後も学生と一緒に研究を続けていくつもりです。



一般教育科
三戸 健司
教授

- 20年間での一番の思い出 当時は電気工学科技術職員の木下さんと建築学科の山下先生と3人で登山部の顧問として、学生6~7名と一緒に九州(主に福岡、大分、熊本)の山々に登って、「自分なりに」体力をつけたこと。もちろん私がいつも足手まといだったみたいだけねっ(笑)。そんなある山での夕飯時に、学生達の調子に乗って(お銚子じゃないよーっ)、一緒に焼肉を食べたこと。ビックリ! そう、その時まで肉はソーセージ類しか口にしたことがない「魚食えせ草食人間」の自分が「疑似肉食人間」へとチェインジしたこと。我ながらまいったねーっ(笑)。
- 20年前と今について 一言で言えば、当時の高専は正に「古き良き懐かしき時代」、今は「ストレス多き詐索と疑心暗鬼の時代」!
- 20年で自分が変わったところ 当時は体重が何と「50キロウ前後」! 今は「75~80キーロウ」!! アンピリーヴァボウ! でも、変わってないのは、視力の良さ(多少は老眼が始まったかもねっ?)と頭髪の高い密度(はげてないらしいですっ!)。
- 学生に一言 いかなる時も命ある限り、そう、そこのあなたっ! 特につ、「自分を大切に」!
「大きな夢、小さな一歩」! 学生に幸多からんことを!!



学生課
有田 順一
図書情報係長

- 20年間での一番の思い出 本校をはじめ、これまでいろいろな機関で働いてきましたが、様々な場所で様々な出会いがあり、それらの方々からいただいた励ましやご支援は、今も忘れられません。現在、当たり前のようにここで働いていますが、それさえも、実はたくさんの人々との“縁”の上に成り立っているものであり、そうした“おかげ”に感謝しつつ、目に見えない“縁”的不思議さにも思いを巡らせてています。
- 20年で自分が変わったところ 自分というものが、少しほ分かるようになったことでしょうか。自分の役割や最終的に目指すところが何となく分かってきましたので、そこにいたるための目標設定がやり易くなりました。
- これから的生活 方 自分の得意分野で、社会に貢献していくようになりたいです。

3年間での思い出や今後の抱負などを語ってもらいました。



5A
トモー君
(シタムラッドワンナポン)

—本当にありがとうございました—

この3年間本当に早かったです。こんなに早くお別れの日が来るとは思っていませんでした。有明高専で過ごした3年間はいろいろ思い出があります。高専坂を上る時の日の出、坂を下りる時のオレンジの夕日の景色、寮生活、先生たち、友達たち、みんな、毎日が貴重な時間でした。

3年前に今の5Aと同じクラスになったとき、友達はできるのか、みんなと仲良くなれるか不安でした。でもみんなはいつも明るく、オープンに話しかけてくれたのですぐに仲良くなれました。3年前には困ったことがあると、ずっと上原先生のところに行つていろいろ相談を聞いてもらい、また、毎日の寮生活でもお世話になり、4年生になってからは岩下先生に進路のことや普段の生活をお世話になり、坂口先生と焼山先生には、日本語を教えてもらい本当にありがとうございました。

皆さん、先生たち、5Aの同級生たちに本当にありがとうございました。

2009アラカルト

九州地区高専留学生日本文化研修

12月29日(火)～1月1日(金)の間、本校において九州地区高専留学生日本文化研修が実施されました。これは、長期休業期間の留学を有意義なものにする方策として試行的に実施したもので、久留米高専、北九州高専、佐世保高専および有明高専の外国人留学生10名が参加しました。

この期間、参加者は、寮に宿泊し、わら細工、竹細工、餅つき、柳川の川下り、御花見学、初詣および正月料理を体験しました。わら細工、竹細工、餅つきは、地域の方々が親切丁寧にご指導くださいり、参加留学生は楽しく日本文化を体験しました。餅つきの最中に突然の冷たく強い雨風や、柳川の川下りでは雪が降ったりしましたが、そのときも皆とても良い笑顔をしていました。

(学生課長 高嶋重俊)



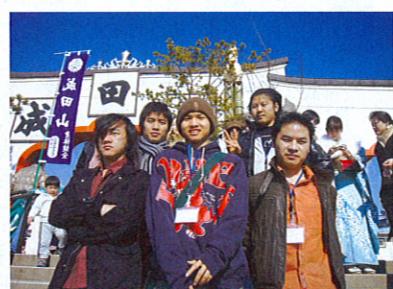
わら細工



竹細工



餅つき



初詣



正月料理



柳川御花見学



柳川川下り

中国遼寧石油化工大学から朱先生来校

12月5日(土)～15日(火)の11日間、交流協定の一環として、中国の遼寧石油化工大学機械工学科から朱向哲先生が本校機械工学科に来校されました。期間中、機械工学科の各研究室訪問や学生実験の見学、石炭産業科学館、三井三池製作所の見学、島原観光などを行いました。また、学生に対して、朱先生の

研究発表を題材としたメカエンジニアセミナーを開催しました。夕方には5M学生との親睦会も行い、英語と漢字を駆使しながら、国際交流を行いました。短い時間でしたが、楽しい時間を過ごすことができました。今後、より交流が盛んになることを願っています。

(国際交流委員会 坪根弘明)



シンガポール・ポリテク学生来校

12月16日(水)～23日(水)の間、姉妹校協定を結んでいるシンガポール・ポリテクニック校（78学科およそ15,000人の学校）から13名の学生と教員が来校されました。滞在中、キャンパスツアーや日本語の特別セミナーおよび英語の授業への参加、創造設計合同演習への参加、華道・茶道・弓道・剣道体験、球技大会参加、熊本城見学、阿蘇山観光などを行いました。期間中は寮に宿泊し、クリスマス夕食会に参加したり、寮生との交流も行いました。また、今回初めてホームステイ体験を実施することができ、学校の枠を超えた地域との交流も少なからずできたのではないかと思います。ホームステイを申し出て

いただいた方々、ありがとうございました。さらに、阿蘇観光では、雪が降ったことで、シンガポールの学生たちは人生で初めての雪合戦を楽しんだり、温泉に入ったりと楽しい時間を過ごしていただいたのではないでしょうか。交流をもつた本校学生は、外国人の人とコミュニケーションをとり、相手に日本の説明をし、また、相手のことを学び、改めて日本の良いところや悪いところを知るきっかけになったと思います。百聞は一見にしかず！

今度は3月に有明高専の学生がシンガポールに訪問する予定です。皆さんも国際交流に参加してみませんか？

(国際交流委員会 坪根弘明)



歓迎会



M科



E科



I科



C科



A科



創造設計合同演習への参加



日本語の特別セミナー



華道体験



剣道体験



茶道体験



送別会

エレクトロニクスものづくり体験教室

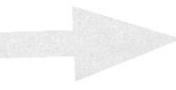
平成21年12月12日(土)に電子情報工学科にて毎年恒例となった第4回エレクトロニクスものづくり体験教室（楽しいロボットプログラミング！ - ライントレーサーを作ろう - ）が開催されました。大牟田市内の小中学校から15名が参加してくれました。保護者の皆さんにも参加していただき、和気あいあいとした雰囲気でした。

今回は、黒の線を追っていくライントレーサーというロボットにコンピューターから指令を送ること（プログラミング）に挑戦してもらいました。難しいコースもあり、クリアするのにみんな必死でした。子供たちは本校の学生スタッフとも仲良くなって打ち解けていました。（I科 石川洋平）



シリーズ

研究室訪問



今回は、電子情報工学科の石川洋平先生と建築学科の鳶敏和先生の研究室を訪ね、お話をうかがいました。

(聞き手：A科 松岡高弘)

石川 洋平 研究室(電子情報工学科)

現在の研究テーマをお聞かせください。

アナログ・デジタル混載LSIの研究です。低電圧・低消費電力・高機能な回路構成を研究しています。その中でも、ニューロンMOSトランジスタという生体機能系のニューロンと似た働きをするデバイスを用いた可変論理回路を研究しています。

この研究をはじめられたきっかけをお聞かせください。

学生時代に放置状態のUNIXサーバと出会ったことが全ての始まりです。研究を始めた頃は、まだLSIを大学で設計することは一般的ではありませんでした。指導教官から「LSIの設計を始めたいんだけど」と相談され、PCとUNIXの区別もつかないまま、情報過疎という苦難を乗り越え、どうにか設計システムを一人で作り上げました。そのシステムを使って独自のLSIを作つてみようというのが研究着手のきっかけです。可変論理回路をテーマに選んだきっかけは、指導教官から、單一回路でカメレオンみたいに機能を変えることができるシステムを考えてみない?と言われたことがきっかけです。

研究で苦労されたこと、心がけていることなどをお聞かせください。

回路設計は「ひらめき」が全てなので、新しい回路を思いつくまでには時間がかかります。焦らず、頭の中で回路をパズルのようにつないでいく習慣を身につけるのに苦労しました。LSI設計システム構築を通じて、学生の頃に払まず様々な大学の先生にコンタクトを取つて情報を収集した経験が今の糧になっています。人脈をつないで自らの研究分野を広げていくことを常に心がけています。

今後の研究の方向をお聞かせください。

研究室の学生が、大学院レベルの演算増幅器設計コンテストで入賞するレベルの技術を身につけてくれたことがきっかけでLSI設計教育に興味があります。効率よくアナログLSIの設計を学ぶことのできるシステム開発を行いたいと思っています。また、デジタル回路分野もFPGAを用いてリスタートさせました。これにより、アナログ・デジタル混載システムの研究が可能となり、双方をバランスよく身に付けた技術者の育成が可能になると考えています。また、医用工学分野で、筋電信号を利用したアプリケーションの開発にも着手する予定です。

学生へのアドバイスをお願いします。

新しい技術を開発するときに必要なことが二つあると私は思っています。一つ目は、既存技術を知ること。そして、二つ目は、利用者の気持ちになることです。学生さんからよく「〇〇の研究をしたいです」と言われます。しかし「なぜ?」と聞くと「なんとなく面白そうだから」という返事が多いです。例えば「雨が降っていて、みんなが困っていたから、傘を開発した」といった具合に、自分でストーリーを描けるようになってください。この例のように「why」に論理的に答える練習を学生時代にたくさんしてください。きっと、将来、様々な問題を解く力になると思います。



研究室の学生と

鳶 敏和 研究室(建築学科)

現在の研究テーマをお聞かせください。

人と自然に優しい技術の開発をメインテーマとして、熱・空気環境が学習効率に及ぼす影響調査、消音制御・快適空調・庭型太陽光発電への情報技術の応用などに取り組んでいます。

この研究をはじめられたきっかけをお聞かせください。

専門とする建築設備は、オフィスビルだけでなく、特殊な環境の管理も行うので幅広い知識が要求されます。加えて、京都議定書の発効やESCO事業の推進などによって省エネルギー性が求められ、さらに防災・減災の機運の高まりやユビキタスネットワーク社会の到来などによって高機能性が求められています。したがって、「建築設備の情報化・高機能化」は非常に重要なテーマだと考え、具体的な研究テーマに取り組んでいます。

研究で苦労されたこと、心がけていることなどをお聞かせください。

企業からきた人間にとって、研究インフラが整っていないことには苦労しています。これは高専だからではなく、多くの大学も同じで、企業の研究所には到底かないません。着任前、すなわち4年前に、ある人から「教員は10年やって、一人前だ」といわれました。確かに、今まででは授業や校務にただ追われていましたが、これからは研究インフラを整えていくつもりです。

芸術性よりも機能性を重視しています。スポーツでも「より高く、より早く、より遠く」という競技は好きですが、フィギュアスケートやシンクロナイズドスイミングなどはあまり好きではありません。反面、厳密性を重んじるかというと、そうではありません。なぜなら、厳密な計算をしても、初期値依存性が高かつたり、使う材料の強度に過大な安全率がかかるつたり、それ自体が必要なかつたりすることが多々あるからです。

今後の研究の方向をお聞かせください。

実システムにおいては、意味のあるデータや妥当なルールは得られないが、でも人はうまくやっている。そのような対象をモデル化しなければならないことがあります。本来は、このような「不完全な情報の下でのシステムモデリング」が専門です。このとき、モデルが「帯に短し櫛に長し」では不適合であり、不経済です。身の丈に合ったプロセッシング、すなわち“ソフトコンピューティング（柔らかな情報処理）”を目指しています。

学生へのアドバイスをお願いします。

技術者・研究者は、常に「夢」を持ち続け、その分野ではトップを目指してください。研究機関に所属していないなくても、創意工夫を心がける、特許出願する、学会発表することです。

バブル崩壊の兆しが見えた頃、ゆでガエル理論を知りました。カエルを鍋で煮ると、冷たいときは泳いでいるが、温度を上げていくと変化に気付かず茹で上がってしまうという現象論です。さらに「どの組織でもこのカエルが何匹かいる」と続きます。残酷な比喩ですが、「鍋から飛び出した先が火の上である可能性もある。ブレークスルーをするときには戦略が必要だ」ともいっています。そのようなブレークスルーを心がけてください。



研究室の学生と

シリーズ 企業訪問 -卒業生を訪ねて-

三井化学株式会社 大牟田工場

(大牟田市浅牟田町30番地)

三井化学株式会社の大牟田工場にお勤めの本校卒業生にお話をうかがいました。お話をくださったのは、荒木保幸さん（C科11期）、南健一さん（M科21期）、藤田明さん（C科22期）です。（取材：E科 森山賀文）

森山：これまでに携わってこられた仕事の内容を教えてください。

荒木：会社内で使用するシステムを導入し、そのシステムを運用するための仕事をしています。

南：以前はプラントの設計を行っていました。現在はプラントのメンテナンスの仕事をしています。機械系の学科を卒業した学生は、プラントの設計または保全、自家発電プラントの管理を行うことになると思います。

藤田：新製品を作るためのプロセス設計を行っています。化学系の学科を卒業した学生は、新製品開発などの研究またはプロセス管理を行うことになると思います。

森山：では、学生のうちにやっておいた方がよいと思われることがあれば教えてください。

荒木：私たちが学生の頃は高専卒業後に進学することが困難でした。現在は専攻科や他の大学へ進学できる環境が整っていると聞きます。進学し、多くの分野を学ぶのもよいと思います。また、英語とパソコンに関する知識は今のうちに身につけておいてください。

南：指示されるのを待つのではなく、自分で考えて行動できるようになってください。また、機械系の学生は、技術を問われますので、専門技術をしっかり身に付けてください。私も、働き出してから、何度も学校の教科書を見直しました。

藤田：問題解決能力を身につけてください。現場では答えのない問題ばかりです。自分で問題を解決できることが大切です。また、コミュニケーション能力も大切です。時には年配者と話をして納得させる必要もあります。自分の意見をしっかり言えることが大切です。また、普段からコミュニケーションをとっていると、自分だけでは解決できない問題に直面したときに他の部署の人からでもアドバイスをもらえたりします。

森山：仕事をされるときに、いつも心がけていることがあれば教えてください。

荒木：結果に手を抜かず、依頼に対して早めに対処するようにしています。早めに対応することで、相手との信頼関係を築くことにも繋がります。

南：部下や現場の人に直接会って指示を伝えるようにしています。メールでも指示を伝えますが、文章だけでは急を要する事項なのかななど、自分の思いが相手に伝わりにくいものです。そのため、メールで依頼した内容であっても、朝のミーティングの際などに、直接会って伝えるようにしています。

藤田：トラブルや問題が生じた場合、自分の目で現場を見に行くことを心がけています。報告書だけで状況を把握することは困難です。実際の現場を見て、時に



左から、荒木さん、藤田さん、南さん

は関係者に聞き込みを行い、状況を適切に把握することが大切です。

森山：仕事で行き詰ったとき、どのようにしてその問題を解決されていますか。

荒木：失敗してしまっても、すぐリカバーするようにしています。対応の仕方が相手への信頼にも繋がります。

藤田：気分転換が大切です。根を詰めてしまうと、情報はたくさんあるけれども、新しいアイデアは浮かばない状態に陥ってしまいます。一度、リセットして全体を見直すことでのアイデアが浮かぶことがあります。ただし、やる前からリラックスしていても意味がありません。まずは思いつき悩むことも大切です。そうすることで多くの情報を得ることができます。

南：そうですね。まずは寝られないくらい悩むことも大切ですね。私は、トラブルのときは逃げないようにしています。逃げてしまうと現場に信頼されなくなってしまいます。

森山：最後に、学生へのメッセージをお願いします。

荒木：幅広い分野の勉強をしてください。今は何の役に立つか分からぬ勉強であっても、仕事のいろいろな場面で役に立ちます。また、英語は頭の柔らかいうちにやっておいた方がいいですよ。

南：表現力を身に付けるために本を読んでください。会社でもレポートの提出や、プレゼンテーションがあります。その際、自分の意見を聞いてもらえるようストーリーを考える必要があるのですが、そのときに本を読んで身に付けた表現力が役に立ちます。自分の考えを相手に伝えられるようになってください。

藤田：学生のうちに今やれることにチャレンジしてください。部活でも、旅行でも、何でもいいと思います。また、自分の限界をいつまでも同じところにおいておくのではなく、限界を伸ばしていくことも大切です。

森山：本日は、お忙しいところお話を聞かせていただき、ありがとうございました。

■デザインコンペティション全国大会■

2009年11月14日(土)・15日(日)に豊田市にて全国高専デザインコンペティション(デザコン)が開催されました。今回は「やさしさ」をメインテーマに4つの部門で競技が行われ、そのうち本校から2部門(空間デザインと構造デザイン)にそれぞれ1チームずつ(いずれも5A学生)出場しました。

空間デザイン部門

5A 上元 彩子

今年の空間デザイン部門のテーマは「景観と人にやさしい住まい」で、私たちは大牟田の駅周辺地区と郊外地区を重ね合わせ、新しい町の型を提案しました。

本戦では図面とパワーポイントを用いてプレゼンテーションを行い、その結果、審査員特別賞をいただきました。当日は公開審査が行われ、審査委員の建築家がどう評価しているのか、どのような基準で審査するのかなどを聞くことができ、とても良い経験になりました。

全国大会に出場するに当たり、貴重な時間を割いてアドバイスをしてくださった先生方、また応援してくれた方々には本当に感謝しています。ありがとうございました。

構造デザイン部門

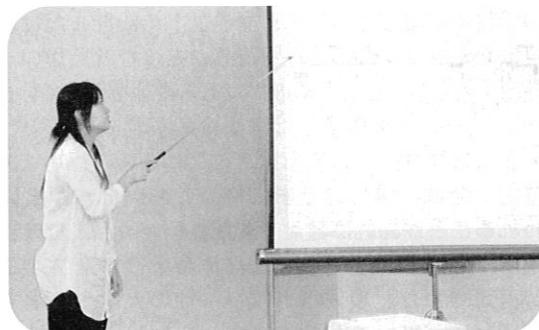
5A 林原 健

今回のデザコン全国大会構造部門のテーマは、木材(ヒノキ)を使用して3点支持ブリッジの模型を製作し、その模型(製作物)の耐荷性能およびデザイン性を競うというものでした。

参加した5名のメンバーはデザコンに取り組むのは初めてで、最初はまったく強度が出ませんでした。しかし、私たちの担任である岩下先生のアドバイスの下、みんなで、それこそ夏休みの時間を割いて模型製作に没頭しました。その結果、全国大会では180kgという自己最高の記録で総合4位という成績を残すことができました。入賞は惜しくもできなかつたものの、全国でこのような結果を残すことができて後悔はありません。次にデザコンに挑戦する学生には、全国優勝を目指して頑張ってほしいです。



競技を終えて全員で集合写真



空間デザイン部門でのプレゼンの様子



構造デザイン部門での競技の様子

冬季球技大会

12月18日(金)に、サッカー、男女バスケットボール、ハンドボール、卓球の5競技で、冬季球技大会が行われました。

風が冷たく、とても寒かったのですが、それを感じさせない盛り上がりでした。

今回は、下級生が上位に入る競技が多く、見ていておもしろい大会となりました。



体育局長 3M 福岡 翔太

最優秀クラス	3A	優秀クラス	5C
種 目	優 勝	準優勝	MVP
サッカ一	4C	5A	松藤 義政
男子バスケットボール	5C	3E	津留 隆秀
女子バスケットボール	1E・C連合	4A	坂口 凪沙
ハンドボ一ル	3A	3M	福島 和哉
卓 球	2-1	2-5	酒井 瑞

第41回吹奏楽部定期演奏会

1月16日(土)

有明高専吹奏楽部は、1月16日(土)に第41回定期演奏会を大牟田文化会館大ホールで行いました。今年は「響有結合」というテーマのもと、有明高専吹奏楽部の響きを会場のみなさんと共有できるよう、部員一丸となって頑張ってまいりました。

毎年このような演奏会を開催できるのも、ご協力いただいた諸先生方、企業、OB・OG、保護者の皆様、そして当日ご来場いただいた皆様のお陰だと深く感謝しております。

第42回定期演奏会は来年の1月15日(土)に行う予定です。これからも有明高専吹奏楽部を宜しくお願ひ致します。



第8回専攻科特別研究発表会(ポスターセッション) 1月14日(木)・15日(金)

専攻科の特別研究を広く学内・外に公表し、その内容と成果を問い合わせ、一方で専攻科のPRを兼ね、1月14日(木)・15日(金)に、本校総合研究棟総合研究室で第8期生36名のポスターセッションを開催しました。2日間とも研究内容紹介のポスターを常時展示し、昼休みと放課後には、担当者が学外からの来校者、本校教職員や在校生に説明しました。

今年も昨年同様、学内の参加を訴えましたが、異常なまでの寒波の襲来で昨年より来場者は少な

かつたように思います。学外からは、大牟田市役所の複数の課から見学に来られ、熱心に説明を聞かれ、今後の地域連携のきっかけになるのではと思いました。学生諸君の説明は普段会話している時とはうってかわってうまく、専門外の私にもよくわかるようにかみ砕いて、しかも要領よく説明してくれまして、プレゼンテーション力は年々向上しているように見受けました。

(専攻科長 北岡敏郎)

13



新学生会



今回、新会長に就任しました4年機械工学科寺地一拓です。

この度、皆さんの支持を得て会長に就任することができ、大変嬉しく感じる反面、今後の運営への責任の重さを感じています。前年度は副会長として前会長の補佐ならびに諸活動に携わりましたが、この経験をもとに、今後の学生会運営をより良いものにできるよう努力していきたいと思います。

さて、今年学生会が取り組まなければならないことは、学生のマナーだと考えています。この問題については、数年前より指摘され続けており、とくに校内では授業中の飲食や食べ歩きなどが指摘されていました。こうした中で、校内のゴミの問題も合わせて、売店の利用について見直さなければならないとの意見も出ており、将来的には文具以外の物品の販売中止の方向で見直しが図られるとの警告を学生会として受けました。そこで今、本格的に改善活動に取り組んで行く必要があるのです。一人ひとりの意識を変えて行くためにも皆さんのお力をよろしくお願いします。

また、もう一点、ペットボトルキャップ回収活動については、前会長のもとで始まったこの活動ですが、新体制となりました今後も引き続き活動して行きますので、これからも協力をよろしくお願いします。

最後になりますが、今年度の学生会役員の構成を紹介します。今回は例年と異なり、風紀局の廃止を行いました。各局の活動内容を見直した結果、他の局内の活動で補えると判断したためです。これにより、今年度は三役ならびに各局員を合わせ、43名の役員で活動を行うことになります。昨年と異なり、ほとんどの局長が新任の局長になりますので、不慣れなこともあるかと思いますが、役員一同全力で取り組みますので、よろしくお願いします。

これからもより良い有明高専をめざして、皆さんとともに取り組んで行きましょう。

学生会長 4M 寺地 一拓

平成22年度 学生会新役員

会長▶	4M 寺地 一拓	
副会長▶	4E 石丸 貴博	3M 秀山 文彦
体育局▶	3M 福岡 翔太	2M 大仁田恵悟(2-5)
	2M 中川 陽平(2-1)	1M 柿原 大輝
	1M 中村 太紀	1E 宮原 佑輔
文化局▶	4I 大津 昌子	4M 田中 亮吉
	3M 安藤 涼	3I 井上 優良
	3I 吉丸 哲史	3A 里中 拓矢
	2E 平島 凌(2-3)	
報道局▶	4A 弟子丸 愛	4I 松田 倫明
	3E 斎藤 武徳	3E 宮園 龍弥
	2E 三宅 健吾	
整美局▶	4M 貝原 心大	4M 田上 義弘
	4M 宮本龍之介	4E 久保 貴博
	3C 吉田 晴香	1M 堤 翔太
涉外▶	4M 大熊 政寛	4M 兼竹 望
	4M 神原 徹	3E 乙丸 裕輝
	2I 樋口 友崇(2-1)	1A 百田 直美
会計▶	3E 柴田 宏樹	4E 山川 考輝
	3A 真弓 遥	3A 山崎 春菜
	2I 古賀 亨(2-5)	
放送▶	4I 植尾 真帆	3C 甲斐田有花
	2C 山田 香織(2-1)	2A 角田 雅季(2-1)
	1C 葛西 夏樹	



学生会役員研修

12月19日(土)

12月19日(土)、新旧の学生会役員25名と学生主事室3名により、学生会役員の研修が行われました。

各人の自己紹介の後、まず、定例会の開催など新学生会としての新しい取り組みの検討や、現在行っている挨拶運動の継続を確認しました。次に、来年度の学生会行事の日程を決定しました。続いて、学生主事室から、通学のルール・マナー、および、売店の販売物品について問題提起がなされました。通学のルール・マナーでは、一部の学生による無許可車輢で通学やバスの乗車マナーの良くない行為により、有明高専全体の学生のイメージダウンに繋がっている現状があること、売店の販売物品については、以前、食べ歩きやゴミのポイ捨て等が改善されなければ、販売物品を縮小するという取り決めになっていたことが述べられました。そして、その解決について学生会としての取り組みが



議論され、まずは全学生にこのような現状をアナウンスすることを確認しました。

新学生会が今までの学生会の取り組みを引き継ぎ、有明高専がより発展するような活動を展開してくれるこことを期待します。
(学生主事補 坂西文俊)

岱明寮だより

寮長挨拶



4E 江崎 祐也

みなさんこんにちは。岱明寮の新寮長の江崎祐也です。岱明寮では毎年1年生に挨拶の指導を行っています。初めはあまり声を出せなかった学生も、指導していくうちに少しずつ声を出して挨拶することができるようになりましたうれしく思っています。時には厳しい指導もあるので、寮の指導やルールについて保護者の方々からいろいろなご意見をいただくこともありますが、ご理解をいただき温かく見守っていただければと思っています。

岱明寮では、昨年5年ぶりに寮生球技大会を実施しました。負傷者もなく開催でき、「楽しかった」との声も多かったので今後も続けていきたいと思っています。

これからもよりよい寮をつくっていけるよう寮生会を中心にみんなで頑張っていくのでよろしくお願いします。



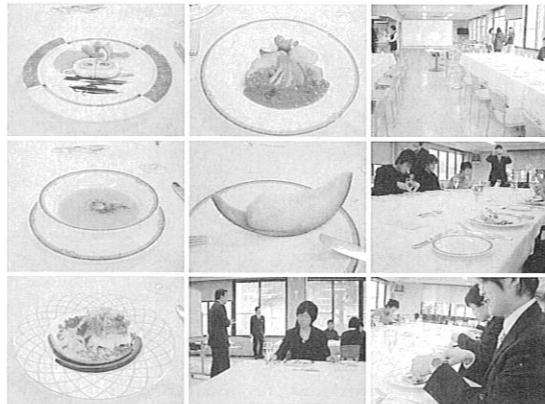
寮生送別会

1月23日(土)に寮生送別行事「予餞会」を岱明寮の食堂にて行いました。昨年はインフルエンザが寮内で蔓延したため急きよ中止となる憂き目を見ましたが、今年は皆元気で張り切って準備をしました。教務主事、学生主事、それに5年生の担任の先生方など多くの来賓の見守る中、第一部では懐かしの写真のスライド上映や記念品贈呈を行い(写真左上)、続く第二部では卒寮生のスピーチや、後輩寮生による余興(写真左下:ステキ青葉棟戦隊、右上:桜棟の白雪姫っぽい話、右下:毛根物語)で大いに盛り上がり、楽しい一時を過ごしました。

(寮務主事補 村田和穂)

テーブルマナー講習会

12月5日(土)に本校修己館にて5年生寮生を対象としたテーブルマナー講習会が開催されました。今回は20名程度の参加者での講習会となりました。講習においては、西洋フードコンパスグループ(株)のホテル部門の方々を講師としてお招きしました。参加した寮生は西洋料理や食事のマナーについて、美味しい料理を味わいながら楽しく学ぶことができました。(寮務主事補 松野哲也)



寮生会役員

平成22年1月26日現在

寮長 4E 江崎 祐也

副寮長 4A 河田 昂希

副寮長 4I 石山 珠子

局名

局名	局長	副局長
会計	4C 藤井 景	2E 三宅 健吾
整美	3M 鈴木 拓磨	3C 山下 修平
報道	4E 山下 祐介	
娯楽	4C 横尾 恭央 2E 吉住 亮祐	2C 金子 匠

銀杏棟長 4E 入江祐太郎

紅葉棟長 3M 鈴木 拓磨

青葉棟長 2M 中川 陽平

若葉棟長 4A 河田 昂希

桜棟長 4I 石山 珠子

桜副棟長 4A 比良松珠美

指導寮生 3M 福岡 翔太 3E 乙丸 裕輝 3C 西村 朋諒

桜棟指導寮生 3A 菊川嵯千枝 3I 花桐誌端香

*指導寮生は23年3月まで

トピックス

中国 遼寧石油化工大学から宋副書記らが来校 11月7日(土)~10日(火)

中国の遼寧石油化工大学の宋副書記ら一行3名が、姉妹校協定更新の打合せのため、11月7日(土)~10日(火)に来校されました。

本校に滞在中、立居場校長との会談をされ、また、図書館実習工場などの見学もされました。そして、福



岡タワー、阿蘇山、石炭産業科学館、奥之院の観光もされました。

立居場校長と宋副書記が今後の5年間も姉妹校協定を結ぶことについて約束しました。この9月に、協定書の調印のため、立居場校長が遼寧石油化工大学へご訪問する予定です。

(国際交流委員会 刘丹)

第9回大学発ベンチャー・ビジネスプランコンテスト 12月11日(金)

九州内の大学・高専を対象に開催された「第9回 大学発ベンチャー・ビジネスプランコンテスト」の最終プレゼンテーションが平成21年12月11日(金)に福岡市役所15階講堂にて行われました。

15大学・高専から50プランの応募があり、1次審査(書類:10月9日締め切り)、2次審査(プレゼンテーション:



11月20日福岡市役所)を通過した6プランが最終プレゼンを行いました。有明高専からは電子情報工学科3年の竹上彬君、井上優良君、立石潤矢君、坂田亮介君、熊野修平君、吉富雄一郎君が「携帯電話に特化した理学・作業療法士コミュニティの構築」として高専初の出場を果たし、九州経済産業局長賞を受賞しました。(I科 石川洋平)

お知らせ

平成22年度の授業参観は、5月25日(火)に開催いたします。

編集後記

21世紀になって10年目の2010年になりました。10年前、小学生だった皆さんは、今、どのように変わりましたか。社会は、携帯電話・インターネットの普及や地球温暖化に対するエコロジーの啓発など複雑多様化し、日本では政権交代も起こり、新しい時代が来ようとしています。しかし、本校が実施しているOBの方や企業へのアンケートでは、社会で働く上で最も必要なことは、ルールを守る等の倫理観、挨拶や礼儀等のマナーであるとの結果も出ています。もうすぐ花を咲かせる学内の桜の木も、幹の中に新しい年輪を刻みました。21世紀の節目の今年、皆さんが、古くても良いものは継承し、その上に新しい自分を付加した年輪を刻めることを願います。最後に、卒業生・修了生の皆さん、頑張ってください。

有明高専だより 第130号

平成22年2月23日

編集・有明高専広報室
発行・有明工業高等専門学校
〒836-8585 大牟田市東萩尾町150
TEL 0944-53-8861(学生課)
<http://www.ariake-nct.ac.jp/>

